

授業科目名	舞台芸術実習 A	担当教員	石井 路子 河村 竜也
必修の区分	選択		山内 健司 田上 豊
単位数	2 単位		杉山 至 深澤 南土実
授業の方法	実習		尾西 教彰 岡元 ひかる
開講年次	2 年 第 1 クォーター		児玉 北斗 鎌田 麻衣子 近藤 のぞみ
講義内容	舞台芸術基礎実習をはじめ、様々な講義や実習での学習成果を上演芸術実作の場に適宜駆使応用することで、実践的な経験値を積み上げる。作品創作のプロセスに携わることで、上演芸術の各部署（戯曲・演出・俳優・舞台美術・照明・音響・衣装・制作・批評など）について実践的に理解を深める。上演芸術を創作・公演する際に重要となる相互の適切なコミュニケーションのあり方について考察を深め、実習を通して試行検証する。		
到達目標	(1) 様々な学習の成果を、舞台芸術作品の制作に応用することができる。 (2) 舞台芸術における制作プロセスの重要性を認識し、自らの役割について主体性をもってその責任を果たすことができる。 (3) 所属する部署の構成メンバーおよび関係する各部署との相互のコミュニケーション（報告・連絡・相談）を適切に行うことができる。		
授業計画	”本実習は上演芸術作品の制作プロセスを体験することを通して、上演芸術についての理解を深めるものである。 また本科目は連携実務演習等にあたり、演劇・ダンス・上演芸術による地域創生などの複数のプロジェクトに分かれ、ゲスト講師や学内教員とのコミュニケーションを通し共同作業として授業を進行する。 時間割枠内でも一定の制作時間を確保するが、進捗によっては指導を基に各自が授業外で制作に取り組む必要がある。 内容については、以下の様な内容を取り扱うが、必ずしもこの順序になるとは限らない。 1. イントロダクション：プロジェクトの全体像の把握 2. 作品制作、題材のリサーチ 3. 作品制作、グループごとの課題設定 4~5. 作品制作 6. 中間発表と後半の目標設定 7~8. 作品制作 9. 作品制作、各グループの進捗をすり合わせる 10. 通し稽古 11. 発表 12. 振り返り、フィードバック”		

事前・事後 学習	<p>事前に、個人的な準備(リサーチ、セリフ入れ、演技の課題設定、プランニング・スケジュール調整など)を十分に行なって実習に臨むこと。</p> <p>チーム内、パートナーとの練習・相談を十分に行なって創作に臨むこと。</p> <p>また、該当する場合はプロジェクトの事前学習会、中間報告会、完了報告会等への参加も必須となる。</p>
テキスト	授業内で指示する。
参考文献	授業内で指示する。
成績評価 の 基 準	制作プロセス(70%) 課題・成果物 (30%)
履修上の注意 履修要件	<p>本実習は並行する複数のプロジェクトを通して実施するため、別途公開される募集要項を熟読の上、申し込みを行うこと。</p> <p>外部の実習指導者が指導にあたることから、時間割枠外での実施がある。</p> <p>また個別に制作を行うため、授業時間外の学習・作業がある程度必要となる。</p>
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、外部指導者とともに、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。